

異性へのメールに付加した顔文字が 受け手の好意に及ぼす影響

—— メール送信者の魅力度を考慮して ——

The effects of emoticons in love letter on receiver's affection
-in consideration of mail sender's attractiveness-

栗林克匡

Yoshimasa KURIBAYASHI

E-mail : kuribayashi@hokusei.ac.jp

和文要旨

本研究では最初に出会った時の魅力度の異なるメッセージの送信者が携帯メールを用いて好意を示してきた、という場面を設定し、受信者が抱く好意が顔文字の付加によってどのように異なるのかについて検討した。調査参加者の女子大学生 97 名に場面想定法による質問紙調査を行った。調査参加者は、「異性との出会いの後、食事に誘われるメールを受け取る場面」を想像して、メール送信者に対する好意や交際希望などの評価を行った。呈示場面において異性の魅力度およびメール文に付加する顔文字の数を操作した。分散分析の結果、最初の印象が良い高魅力度条件の方が相手に対する好意や社会的望ましさの評価において肯定的であった。また、全文に顔文字が付加されると顔文字を付加しない場合よりも知的さや礼儀正しさといった社会的望ましさに欠けており、不快な評価になっていた。さらに、最初の印象が悪い低魅力度条件では顔文字の付加に関わらず好意の評価は低いが、高魅力の相手からのメールでは、顔文字を全文に付加すると顔文字なしの場合よりも評価値が低く、低魅力の相手の場合と同程度の値にとどまるという交互作用が示された。この結果は、心理的リアクタンスや好意の返報性の観点から議論された。

キーワード：顔文字、対人魅力、印象形成、電子メール

Keywords : emoticons, interpersonal attraction, impression formation, e-mail

1. はじめに

現在は、パソコンや携帯電話を用いた電子メールのやりとりが盛んに行われている。電子メールは手軽に意思疎通する道具としてすっかり市民権を得たと言えよう。特に若者にとって、携帯電話などコミュニケーション・ツールは、欠くことのできないものである。誰かとの交際を始める場面や、その誰かとの関係を続けていく時、そのツールは頻繁に使用されている。直接対面できない時でも 2 者を繋いでいるのである。ただし、電子メールはその手軽さゆえに単なる情報交換の場合は抜群の効率を持つと思われるが、個人の感情の機

微を伝えることは得意ではない。なぜなら、電子メールは対面コミュニケーションと異なり、お互いの表情や身振り、声の大きさや抑揚など非言語的情報を伝達しにくいからである。その伝達上の難点を補うために、顔文字が利用されることになる。顔文字とは表情やしぐさに似せて、文字や記号を組み合わせて作られたシンボルである。主に文末に付加することで、その文に、意味や感情について情報を加えるという目的で用いられることから、表情やしぐさに似た機能をもつ [1]。

本研究では、初対面の男女の出会いの場面にメールの果たす影響に焦点を当てる。具体的には、